

学校防犯・防災 News Vol. 1

平成21年10月13日
教育委員会事務局総務課
学校防犯・防災担当

TEL: 671-4178 FAX: 663-6292 E-mail: ky-bouhan@city.yokohama.jp

☆☆☆岸谷小学校PTA防災キャンプの取り組み☆☆☆

PTAキャンプは、学校合宿に防災訓練を合体させたもので、児童に楽しく防災の知識を身につけてもらおうと企画されたものです。学校とPTAで実行委員会を組織し、地域住民や地元消防署、鶴見区役所等の協力を得て一体となって取り組んでいます。キャンプへの参加は最高学年の6年生で、4つの班に分かれての作業でした。防災訓練後、夜には炊き出しのカレーを食べたり、キャンプファイアーをしたりとお楽しみもあり、とても有意義な一日になったようです。以下、当日のスケジュールと活動時の様子です。

当日のスケジュール

8月28日(金)

- 13:30 実行委員及びボランティア集合
- 14:30 6年生再登校
- 14:45 開会式
(実行委員長あいさつ、児童決意表明、防災講話)
- 15:15 担当班打ち合わせ
(指導者・班員紹介、職務内容確認、点呼)
- 15:30 救急救命披露
- 15:50 実践訓練
(①安全班、②食糧班、③施設班、④救護班)
- 18:00 炊き出し配布
- 19:00 校内破損箇所点検訓練(安全マップ作り報告会、防災オリエンテーリング)
- 20:00 キャンプファイアー
- 21:00 班長会議
- 22:00 就寝



8月29日(土)

- 6:30 起床、着替え
- 7:00 朝の集い(健康状況報告)
- 7:30 朝食準備・撤収作業
- 8:30 朝食
- 9:00 清掃
- 10:00 全体集合・解散

(15:15)

●開所式、打ち合わせ●

開所式で実行委員のあいさつが行われた後、4つの班ごとに分かれて会議をしました。作業にどのような意味があるのかを事前にレクチャーし、活動をより意義のあるものにします。ちなみに班は「安全班」「食糧班」「施設班」「救護班」の4班構成です。



(15:30)

●レスキュー隊模範演技●

末吉消防特別救助隊(レスキュー隊)による救急救命の模範演技が披露されました。児童が隊長となり、レスキュー隊員に拡声器で指示を飛ばしていました。隊員は小学生上司の命令に応じて対応していました。(笑)



(16:00)

①安全班

防災探検マップ作り。災害時を想定し、具体的にイメージしながら、危険箇所になるであろう場所をチェックしていきます。また、安全であると予想される場所についても同時に確認しておきます。



(16:20)

②食糧班

災害時において食糧確保は大切です。虫眼鏡と太陽光で火をおこします。煙は立つものの、燃え広がらなかつたり、枝木に炎が移らなかつたりとなかなか難しいです。



(16:40)

③施設班

体育館や空き校舎に人が入らなかった場合を想定して、テントを張ります。骨格を作り、シートを張り、地面に打ちつける。どの工程も予想外に大変な作業のようで、完成するまで苦勞していました。



(17:00)

④救護班

布一枚でも負傷者を運べます。緊急時には使用可能なものが限られてきます。あらゆるものを使い、使用不可能である別なものの役割を果たせるように工夫することが必要です。このほか、物干し竿と毛布で担架を作る練習もしていました。

(18:00)

●炊き出し(晩ごはん)●

食糧班が炊き出しのカレーライスを配布しました。集中して活動したあとは腹ペコです。いつもより食欲がわいてたくさん食べてしまいました。



(20:00)

●キャンプファイアー●

レクリエーションのキャンプファイアーは全員参加で盛り上がりました。一生懸命学んだあとの楽しみは倍増しますね。地域の方も一緒に参加してひとつの大きな「わ」ができたようです。



児童の感想



役に立つ所や危険な所を探してみても、危険な場所がたくさんあってびっくりしました。公衆電話は携帯電話が使えないときに使えるので、便利だと思いました。(安全班)



災害時にガスが使えなくなったらという想定でご飯を炊く訓練をしました。ご飯を蒸すにはどうするのかと思いました。もし本当の災害があったら、参考にしたいです。(食糧班)



ホースの使い方やAEDの使い方など、ふつうではできないことができたので、とてもいい体験になったと思いました。人工呼吸など以外に力が必要だとわかりました。(救護班)

★両角校長先生から★

まず、スムーズに進行できキャンプが成功したことについて、関係者の方々に感謝を申し上げます。

キャンプには6年生の思い出作りという一面がありますが、より意義のあるものにしたいとPTAと一緒に考えこの防災訓練を取り入れた形が出来上がりました。防災訓練を実施するにあたっては、子どもたちが受身にならず楽しくできるようにイメージしていたので成功してよかったです。この体験をした子どもたちが中学生になったとき、今度は教えられる立場から教える立場として小学校に戻ってきて欲しいと思います。今後は小中一貫で防災教育ができれば最高です。

また、「地域は地域で守る」と掲げているように、防災についてはこのような機会を通して地域の方々にも働きかけを行っていきたいと考えています。学校・PTA・地域の三者が顔を知ることのできる良いチャンスだと思います。

◆取材を通じて

防災訓練と学校合宿を組み合わせた取組は、非常に有効的な安全教育になりうると感じました。防災キャンプの主催者であるPTA会長さんは「楽しいアクティビティとあわせて防災訓練を構成することで、児童の頭の中には、楽しい思い出とプラスして防災の知識も長く記憶されるのではないかと考えを話してくださいました。確かに児童たちは長い時間ずっと楽しそうに活動に取り組んでいました。教えるときに楽しみを組み込むと知識がよく定着すると思いますが、合宿と合わせることで防災訓練がよりいきいきとしたものになり、記憶にも残る非常に有意義な活動だったように思います。



TOPICS～地域防災拠点訓練～

災害がいつ発生しようと、児童生徒の安全のためには学校と地域との連携が重要であり、そのためにも日頃から地域の皆様と「顔の見える関係」を作ることが必要です。

そのような観点から学校防犯・防災担当では先日地域防災拠点訓練への連絡調整者の原則1名の参加を依頼するとともに、地域と合同した防災訓練の開催をお願いしています。

戸塚区の柏尾小学校では、さらに一歩進んで、いざというときは学校全体が地域としっかりスクラムを組めるように、学校と地域防災拠点運営委員会の共催による防災訓練を開催しました。<8月29日(土)>

当日は、校長先生、副校長先生、連絡調整者の職員をはじめ、教職員全員と全校児童が参加、消防・警察のご協力をいただき、地域の人たちと初期消火訓練や三角巾、AEDを使った応急処置、土のう作り、土石流体験や豪雨体験など盛りだくさんのメニューを体験し、最後は各教室での保護者の引き取り訓練で締めくくりました。

たくさんの子どもの姿に地域の皆さんも大張り切り！積み重ねてきた打ち合わせや当日の訓練を通じて先生方と地域の皆さんとの絆が一層深まった一日でした。

